

## 令和4年度 第1回病院構造改革委員会議事要旨

- 1 日 時： 令和4年9月14日（水）15:00～17:00
- 2 場 所： 県庁2号館5階 庁議室
- 3 出席者： 出席者名簿(P10)のとおり30名（委員8名、事務局等22名）
- 4 議 題： 令和3年度病院構造改革推進方策実施計画の自己点検・評価（案）について  
次期病院構造改革推進方策（新たな病院運営方策）の策定について

### 5 主な内容：

#### (1) 令和3年度病院構造改革推進方策実施計画の自己点検・評価（案）について

##### ア 事務局説明

- ・資料1に基づき、令和3年度病院構造改革推進方策実施計画の自己点検・評価（案）について説明

##### イ 意見交換（以下は主な委員意見）

###### （新型コロナウイルス対応【資料2 p1～p3】）

- ・外部者の目から見ると、例えば「重症病床42床」というのが、県全体の中で多いのか少ないのか判断できないため、県全体の病床数を記載いただきたい。
- ・受け入れ患者数の割合については、その分母は県内の感染者数なのか、県民の感染者数なのかかわからないので、わかるように記載いただきたい。それにより、県立病院の功績がより正確に評価できると思う。
- ・県立病院職員の応援派遣や感染対策指導等、他施設のサポートに関するデータがあるのなら資料に記載いただきたい。

###### （県民等への情報発信の推進【資料2 p40～p42】）

- ・県立病院が非常に頑張っていることは理解しているが、県民へのアピールが弱いように感じる。私の住んでいる市では、市の広報に市民病院の取組や現状が載っている。県も広報誌は作成されているが、あまり県民の目にとまらないため、広報媒体の選択も含め、新型コロナ対応等の県立病院の取組をもっと幅広く情報発信していただきたい。
- ・広報については、ラジオ等他の媒体で発信したものでも、インターネットの記事になるとニュースサイトで拡散され、大きな効果となる。費用がかかるかもしれないが、新たな取組についても検討いただきたい。
- ・広報誌の発行回数等の取組実績が記載されているが、一方通行の情報発信・評価になっている印象を受ける。広報の回数や取組内容ではなく、その効果を評価・検証することが重要であるため、次期計画ではこの点を考慮して目標を設定していただきたい。

**(経営目標の設定と持続的な経営の取組、患者の受入れ促進等、費用の抑制【資料2 p42～44、p45～p46、p51～p52】)**

- ・「収支構造の変化」とは、具体的にどういったことを指しているのか。もう少し分かりやすく整理し記載していただきたい。
- ・県立病院では、令和3年度は入院患者数が計画を上回ったものの外来患者数が目標を下回ったということだが、逆に外来患者数が増加し、入院患者数が減少した病院もある。コロナ禍において患者の受診動向が細かく変化しているという実感があり、今後の患者動向には注視が必要である。
- ・費用の抑制については、医業収益に対する各種比率を指標管理されているが、新型コロナ対応という政策医療（事業）が展開されている状況下では、費用に新型コロナ対応に係る職員の給与費や材料費も含まれているため、これと保険診療を中心とする医業収益とを対比することは、アンフェアな結果になり誤解を受けかねない。仮に経常収益を分母にすると、新型コロナ関連の補助金を含んでいるため、比率は50%台となり、県立病院が新型コロナ対応を頑張っているということが、財務的にも健全な形で見えてとれるようになる。このように実態が正しく伝わる記述にしていきたい。

**(働きやすい職場づくり【資料2 p58】)**

- ・医師等職員の働き方改革については、早急に実態把握をしたうえで、タスクシフト／シェア等の時間外勤務の削減策を検討してシミュレーションを行い、今年度中に計画を策定しないと開始に間に合わない。宿日直許可の取得も全病院が完了していないと思うので、病院局が先導し、急いで作業を進めていただきたい。
- ・不妊治療のための休暇の新設について、資料の記述では医師のみが対象であると誤認される可能性があるため、全職員が対象であることがわかるよう、表現を修正していただきたい。

**(横断的な視点)**

- ・担当医の異動により減少した項目があるが、同様のことが院内の広範囲で生じると病院の持続可能な運営に支障が出るため、計画的な人材確保に努めていただきたい。
- ・計画を下回った理由を適応患者の減とされている項目については、次期計画策定の際、トレンドが以前と変わっており今後も減少が見込まれるのか、それとも一時的なものなのかを見極めた上で目標を設定する必要がある。
- ・目標の立て方と評価の仕方について、例えば資料2 p39のEBMの推進が評価○となっているが、これだけでは何を実施したのか、どんな理由で評価○としたのかわからない。同頁のカルテ開示の実施についても、請求があれば開示するのは当然であり、件数はその時々で増減し、むしろ増える方がよくないかもしれない。そのため、EBMの推進ではガイドラインに基づいて実施した割合、カルテ開示については請求から一定の日数以内に開示した割合、等としないと評価し難いと思うので、次期計画策定の際は検討いただきたい。

(2) 次期病院構造改革推進方策（新たな病院運営方策）の策定について

ア 事務局説明

- ・資料3に基づき説明

イ 意見交換

- ・発言なし

## 出席者名簿

### (委員)

区分	所属	委員名			
学識経験者	神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野教授	ヒラ平	タ田	ケン健	イチ一
	全国自治体病院協議会名誉会長	ヘン邊	ミ見	キミ公	オ雄
	神戸大学大学院医学研究科医科学専攻准教授	コ小	バヤシ林	ダイ大	スク介
	東京都立大学客員教授	タニ谷	タ田	カズ一	ヒサ久
団体医療	兵庫県看護協会会長	ナリ成	タ田	ヤス康	コ子
医療を 立場 を受ける	ラジオ関西編成営業局メディア開発部長	ヤマ山	モト本	ジュン純	コ子
	公 募 委 員	フジ藤	ク久保	マ真	キ季
	公 募 委 員	ヒコウ兵	ドウ頭	ジュン純	コ子

### (病院局・県立病院)

	所 属	氏 名			
病院長・ センター 長	尼崎総合医療センター院長	ヘイ平	ケ家	トシ俊	オ男
	西宮病院 院 長	ノ野	グチ口	シン眞	ザブ三郎
	加古川医療センター院長	タ田	ナカ中	ヒロ宏	カズ和
	はりま姫路総合医療センター院長	キノ木	シタ下	ヨシ芳	カズ一
	丹波医療センター院長	ニシ西	サキ崎		ホガラ朗
	淡路医療センター院長	スズ鈴	キ木	ヤス康	ユキ之
	ひょうごこころの医療センター院長	タ田	ナカ中		キウム究
	こども病院 院 長	イ飯	ジマ島	カズ一	モト誠
	がんセンター副院長	フジ藤	ノ野	ヤス泰	ヒロ宏
	粒子線医療センター院長	オキ沖	モト本	トモ智	アキ昭
	神戸陽子線センター長	ソエ副	ジマ島	トシ俊	ノリ典
	災害医療センターセンター長	イ石	ハラ原		サシ論
	リハビリテーション中央病院長	ハシ橋	モト本		ヤス靖
	リハビリテーション西播磨病院長	ミズ水	タ田	エイ英	ジ二
病院局	病院事業管理者	スギ杉	ムラ村	カズ和	ロウ朗
	病院事業副管理者	ヤ八	ギ木		サトシ聡
	病院局 院 長	ナカ中	ノ之	ソウ菌	ゼン善
	企画課 課 長	スガ菅	サワ澤	マ真	オ央
	管理課 課 長	ヨシ吉	カワ川	アキ昭	ヒロ裕
	管理課人材育成専門官	カワ川	イ井	タカ龍	ヤ也
	管理課看護専門官	オオ奥		ユ由	カ香
経 営 課 長	トリ鳥	タ田	シン信	ジ次	